

熊本大学の魅力・資源カタログ

熊大辞典

「熊大歌留多読み札」解説

【用例】

あ

赤門

【建】「あかもん」

索引
分類
項目
読み
解説

旧制第五高等学校正門は、通称「赤門」と呼ばれています。煉瓦と自然石とを組み合わせた親柱と袖壁からなるこの門は、明治二十二年に本館等の建物と同時期に完成したもので、昭和四十四年には国の重要文化財に指定されました。かつて門内には畑があり、五高教授であった**夏目漱石**は、「いかめしき門を入れば蕎麦の花」と詠んでいます。

関連項目

本学の魅力を学内外に広く発信することを目的として、『熊大辞典』熊本大学の魅力・資源カタログ『熊大歌留多読み札解説』を作成いたしました。

これは、平成二十四年度及び二十五年度に行われた「熊大歌留多読み札」コンクールにおける、五千を超える応募作品から選ばれた四十四作品を紹介し、その中に詠み込まれている本学の魅力や数々の資源（五高記念館などの歴史的建造物、*KUMADAIMA* マグネシウム合金などの先端的研究、夢科学探検などの地域貢献等）について解説したものです。

熊本大学の魅力・資源カタログ

熊大辞典

「熊大歌留多読み札」解説



分類一覽

イ イメージ

健児くん 10
 コミュニケーションマーク 12

教 教育

学長講義 6
 教育学部附属小学校 7
 教育学部附属中学校 7
 教育学部附属特別支援学校 8
 教育学部附属幼稚園 8
 高校生のための 10
 熊大ワクワク連続講義 28
 ユア・フレンド事業

行 行事

阿蘇耐久遠歩大会 2
 紫熊祭 15

研 研究

永青文庫 3
 エイズ学研究センター 4
 熊大耐熱マダネシウム・熊大不燃マダネシウム 9
 発生医学研究所 21
 パルスパワー 22

施 施設

アゴラ 2
 こばと保育園 12
 上海オフィス 15
 食堂 16
 附属図書館 26
 附属図書館の蔵書 26
 まちなか工房 26
 薬草園 27

診 診療

医学部附属病院 3

貢 地域貢献

えこあくど 4
 知のフロンティア 19
 千潟フェスタ 23
 夢科学探検 28

連 地域連携

大学コンソーシアム熊本 18

伝 伝統

校章 11
 同窓会 19

環 風土・環境

立田山 18

歴 歴史

サインカーブ 15
 ストーム 17
 漕艇部 17
 入神致用 21
 武夫原 23

建 歴史（建物）

赤門 2
 化学実験場 6
 工学部研究資料館 10
 五高記念館 11
 山崎記念館 27

人 歴史（人物）

北里柴三郎 7
 夏目漱石 20
 ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 29

写真右：空から望む黒髪キャンパス

あ

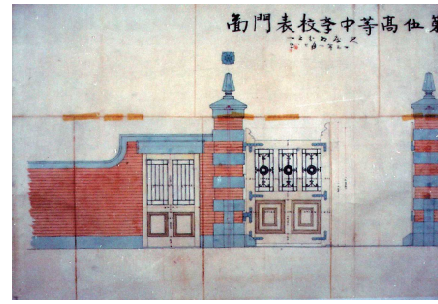
赤門

【あかもん】旧制第五高等学校正門は、通称「赤門」と呼ばれています。煉瓦と自然石とを組み合わせた親柱と袖壁からなるこの門は、明治二十二年に本館等の建物と同時期に完成したもので、昭和四十四年には**国の重要文化財**に指定されました。かつて門内には畑があり、五高教授であった**夏目漱石**は、「いかめしき門を入れば蕎麦の花」と詠んでいます。



赤門

赤門をくぐりて今日も志を極む



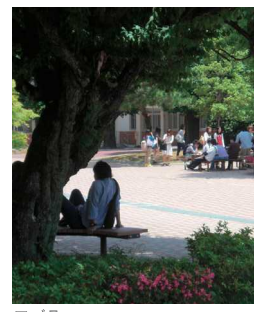
赤門建設当時の図面

建設当時の図面から、当初は門扉を着ける予定であったことがうかがえます。しかし何らかの事情により、門扉をつけない状態で建設されました。

父が通った赤レンガ いつか私も熊大生

アゴラ

熊本大学では、文学部・法学部棟、教育学部棟前広場を平成二十二年度に整備しました。この広場は「アゴラ」（古代ギリシアの都市国家にあった公共広場のことを指します）と名付けられ、学生たちによって休憩や昼食をとるスペースとして利用されています。

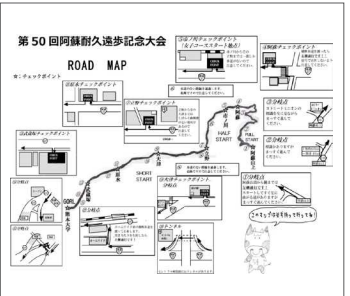


アゴラ

春の日に アゴラでしばしの日光浴

阿蘇耐久遠歩大会

熊本大学では、毎年開学記念日である十一月一日に「阿蘇耐久遠歩大会」が開催されています。これは、長い道のりを自分の脚で歩くことで、交通手段の発達した現代社会において忘れられがちな「歩くこと」の大切さ、素晴らしさを知ってもらうこと、また、完歩することによって日常では得ることのできない「感動」「達成感」を体験してもらい、今後の人生の糧としてもらうことを目的としています。スタートは午前零時。黒髪キャンパスの**赤門**がゴールです。阿蘇山頂をスタートするフルコ



阿蘇耐久遠歩大会ロードマップ

ス（約五十八キロ）、ハーフコース（約三十五キロ）、ショートコース（約十八キロ）の三つのコースがあります。平成二十五年度は、遠歩大会が開かれてから五十回を迎え、学生、教職員あわせて五百八十九名が参加しました。

心身を鍛錬します 阿蘇遠歩

い

医学部附属病院

熊本大学医学部附属病院は、今から百四十年以上前、明治三年に熊本藩が熊本城古城に西洋医学の病院を興したのがその始まりです。熊本の市街地からほど近い本荘キャンパスに位置するこの病院は、大学附属病院として医学の発展及び医療人の育成に努め、また地域の福祉と健康に貢献すべく、三十の診療科、二十八の中央診療施設等で日々診療を行っています。



医学部附属病院

え

永青文庫

「永青文庫」は、かつて熊本藩主であった細川家に伝来した歴史資料等を所有・管理する財団の名称です。熊本大学附属図書館には、この「永青文庫」のうち細川家北岡邸に保管されていた古文書・古典籍類が寄託されています。その数はおよそ四万四千点にも上る膨

本荘の緑豊かな病院に命をつなぐ心ありけり

す。都道府県がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院等の指定も受けており、熊本県の地域医療水準の向上にも取り組んでいます。



永青文庫研究センター

遺されし 細川の宝 永青文庫

エイズ学研究センター

「**ター**」「えいずがくけんきゅうせん」と

熊本大学エイズ学研究センターは、平成九年に日本の大学で初めて「エイズ」の名を冠して設立された研究センターです。センターではエイズ撲滅を目指し、国内外の研究機関と連携をとりながら、最先端の研究を行っています。特にHIV感染症での免疫を中心と

した研究と新薬の開発に焦点を絞り、新たな治療薬や予防法の開発を目指して、日々エイズとの戦いを続けています。

難病に
光明見出す
エイズ研



エイズ学研究センター

えこあくとは

豊かな緑と水資源に囲まれた熊本にある大学として、「エコ・キャンパス」の実現、持続的な環境保全活動、環境改善などを推進しています。「えこあくとは」とは熊本大学が平成十八年から毎年刊行している環境報告書のことです。



えこあくとは表紙

この報告書を通じ、熊本大学が実施している環境に配慮した積極的な諸活動を知っていただけように努めています。環境報告書の機能は、大学構成員に対する啓発活動および環境管理（環境マネジメント）の状況把握で利用されており、大学外の方々（地域住民、学生の保護者、大学を目指す高校生

など）に対する情報公開の場にもなっています。



工学部屋上に設置されたソーラーアーチ

えこあくとは
地球を愛する
証しなり



赤門とサインカーブ

か

化学実験場【かがくじつけんじょう】



化学実験場

黒髪北キャンパスの全学教育棟の奥に、いくつもの煙突が見える外観や、実験を行う教員の手許が見えるよう設計された階段教室が特徴的な「化学実験場」があります。この建物は、明治二十二年、第五高等中学校時代に本館（現**五高記念館**【かきんくわん】）や**赤門**【あかかど】等と同時に建設されました。現存する本館等と同じく、昭和四十四年に国の重要文化財に指定されています。また、

夏目漱石【なつめいしゆくせき】の『吾輩は猫である』の水島寒月や『三四郎』の野々宮宗八のモデルになったともいわれる物理学者・寺田寅彦は、この第五高等学校で物理を学び、のち、東京帝国大学に進学しました。寺田寅彦ら先達らが学んだこの化学実験場の教室は、現在、新入生対象の「**学長講義**【がくちようこうぎ】」の際などに使用されています。

学長講義【がくちようこうぎ】

熊本大学では、新入生全員を対象とした「学長特別講義」（学長講義）を行っています。「熊本大学の学生としての誇りを持って、輝く未来の担い手となれ！」とのメッセージを込めて、学長自らが熊本大学の過去・現在・未来を語りまします。大学生活において、学生と学長が直接顔を合わせて話をする場は限られていることから、学長講義は学生が学長を身近に感じられ

る数少ない機会となっています。また、このように学長自らが新入生全員に対して講義を行うことは、全国の大学でも大変珍しい取り組みです。この講義は、普段は開放されていない国指定重要文化財である第五高等学校**化学実験場**【かがくじつけんじょう】の階段教室を使って行っており、熊本大学が持つ伝統を感じる



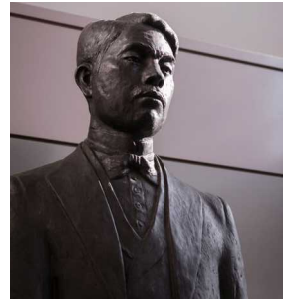
階段教室での学長講義

ことができます。

未来を担う若人の
背中を後押し
学長講義【がくちようこうぎ】

き

北里柴三郎【きたさとしばさぶろう】



北里柴三郎像

明治三年、「熊本藩医学所」（古城医学校）（現**医学部附属病院**【いぎぶくふぞくちゅういん】）が創設され、西洋医学の教育が始まりました。破傷風菌の純培養や免疫抗体の発見、血清療法の実立等で有名な北里柴三郎博士はこの古城医学校で学んだ学生の一人です。現在、熊本大学の医学教育部では、北里柴三郎博士のように世界で活躍する基礎医学研究医の養成を目的とした「柴三郎プログラム」を実施しています。

北里の
魂うけて
医を学ぶ

教育学部附属小学【がくぶ】

熊本大学教育学部附属小学校は、明治七年に仮師範学校の附属学校として発足した長い歴史のある小学校です。戦後の学制改革により官立熊本師範学校が熊本大学教育学部となったの同時に、熊本大学に編入されました。校舎は京町キャンパスに置かれています。教育学部附属小学校には約七百人の児童が在籍しており、「自主自立の教育」「個性重視の教育」「自他の尊重の教育」を教育目標とし、「考える子」「強い子」「明るい子」

の3つの子どもの像を掲げ、日々教育に取り組んでいます。長い歴史を持つ附属小学校では、明治三十年代にはすでに行われていたという伝統行事「うさぎ狩り」が毎年十二月に今でも実施されています。



うさぎ狩りの風景

寅の刻
附小伝統
うさぎ狩り

教育学部附属中学【がくぶ】

熊本大学教育学部附属中学校は、昭和二十二年に熊本師範学校男子部・女子部各附属中学校として誕生しました。昭和二十四年に熊本大学教育学部附属学校となり、現在では、約四十八名の生徒が在籍しています。校舎は附属小学校と同じ京町キャンパスに置かれており、運動場の一角には、当時を物語る楓（ふう）の木があり、学校のシンボルツリーとなっています。



楓の木

校歌は男女混成四部合唱で、美しいハーモニーを響かせます。また、コーラス部はNHK全国学校音楽コンクールにおいて中学校としては最多の出場回数を誇っています。

ふらの木の
ゆれる葉音と
大合唱

教育学部附属特別支援学校

熊本大学教育学部附属特別支援学校には、小学部・中学部・高等部に合計六十人の子どもたちが在籍し、毎日「自立と社会参加」に向けた学習に取り組んでいます。熊本県の知的障害教育校では一番歴史のある学校で、平成二十七年



特別支援学校の生徒たち

には創立五十周年を迎えます。昭和二十五年には既に附属小学校において特別教育が試験的に開始されており、昭和四十年に熊本大学教育学部附属養護学校が設置されました。

様々な個性がキラリ
熊大附属特別支援

教育学部附属幼稚園

熊本大学教育学部附属幼稚園は、大正五年に設置された歴史ある幼稚園です。街中の一角に設けられた園舎の中心には大きくすの木の木があり、附属幼稚園のシンボルとなっています。平成二十五年に附属幼稚園の大幅な改修工事が行



附属幼稚園のくすの木

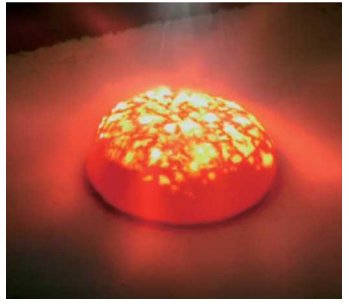
校一と名前を改めました。校舎は黒髪キャンパス東側に位置し、平成二十二年より二年の歳月をかけて改修されました。現在は、この新しい校舎で、様々な取り組みが行われています。

われ、平成二十六年からは、新しい園舎で幼児教育が開始されています。

りっぱだなあ
附幼のくすの木
あおぎ見る

熊大耐熱マグネシウム・熊大不燃マグネシウム

熊本大学先進マグネシウム国際研究センターの河村能人教授は、平成十五年、従来にない優れた強度と耐熱性を持つ革新的なマグネシウム合金を開発し、「KUMADAI耐熱マグネシウム合金」と名付けました。平成二十四年には、さらに進化を遂



(提供：JST サイエンスチャンネル)

げた不燃性の高強度マグネシウム合金「KUMADAI不燃マグネシウム合金」の開発に成功。医療、航空機、鉄道、自動車、宇宙など、汎用マグネシウムでは手が届かなかった分野への進出が見込まれており、日本のみならず世界の企業から注目されています。

軽いぞ
強いぞ
熊大マグネシウム



KUMADAI 不燃マグネシウム合金 (写真上・下)

け

健児くん [1] (けんじくん)

健児くんは、熊本大学Webマガジン「熊大なう。」で活躍中のキャラクターです。教養教育等で学生に馴染みある黒髪北キャンパスは、元々旧制第五高等学校（五高）の敷地でした。この五高が立田山（龍田山）の南側に位置することから、五高生は「龍南健児」と呼ばれており、学生服、学帽、マント、下駄といったバンカラスタイルが特徴的でした。健児くんの名前や恰好は、この「龍南健児」にちなんだものです。



「龍南健児」の像

健児くん「熊大なう」のキャラクター

こ

工学部研究資料館

工学部研究資料館は、明治四十一年に官立熊本高等工業学校の機械実験工場として竣工した煉瓦造り平屋建（一部中二階）の建物で、五高記念館等と同様に国指定重



工学部研究資料館

要文化財に認定されています。昭和二十四年の国立大学熊本大学の設置により、熊本大学工学部の実習工場として引き継がれ、昭和四十六年に新工場が新築されるまで約六十年にわたって教育研究に利用されてきました。新工場の建設に伴い、工場としての役目は終えましたが、昭和五十二年の工学部創立八十周年記念事業の一環として、日本の工業技術における黎明期の教育研究施設を今日に伝えるべく「工学部研究資料館」として整備されました。現在は毎月一回、第三金曜日に資料館の公開を行っています。

浪漫と誇り 湛えて動く 機械遺産



工学部研究資料館内部

高校生のための熊大ワクワク連続講義

五高記念館 [2] (ごこうきんねん)

熊本大学五高記念館は旧制第五高等学校（のち第五高等学校、通称五高）の本館として明治二十二年に竣工した建物で、現存する旧制高等学校の建物としては最も古いものの一つです。フランスで建築を学んだ山口半六により設計されました。旧制高等学校のうち一高から八高までは「ナンバースクール」と言われていますが、ナンバースクールの中でも、当時の校地に本館が現存しているのは大変珍しく、貴重です。熊本大学発足後は法文学部の教室として利用されました。昭和四十四年に国の重要文化財に指定され、平成五年からは「五高記念館」として五高に関する資料を一般に公開しているほか、企画展を行っています。平成二十五年五月には、入館者数が十万人を超えました。

ワクワクで 育む意欲 高大連携

校章 [3] (こうしょう)

熊本大学には、七つの学部、七つの研究科・教育部が設置されており、約一万人の学生が在籍しています。本学の校章は、熊本市の市木でもあり、キャンパス内にも多く植えられている「銀杏」をモチーフとしたものです。昭和二十五年三月、教員と学生代表による審査委員会により意匠が決められ、バッジが作成されました。校章は校旗にもデザインされており、校章のうこん、校旗の紫紺は、コミュニケーションマークにも使用され、本学を象徴するものとして引き継がれています。



校章・校旗



赤煉瓦と銀杏

紫の 絆でつながる 七学部



熊大ワクワク連続講義

平成二十五年度は、延べ二十人以上の高校生が受講しました。このほかにも各高校に大学教員が出向いて大学の授業を行う「出前授業」など、高大連携事業に取り組んでいます。

100年の
学び刻みし
五高記念館



五高記念館

煉瓦色
赤く燃ゆるは
学徒の心

こぼと保育園

るんるん
こぼとの園児
げんきよく



こぼと保育園

コミュニケーション
ンマーク

熊本大学の法人化をきっかけに、
社会の皆様により本学への親し
みを持ってもらおうと、「コミュニ
ケーションマーク」が作成されま
した。
このコミュニケーションマーク
は、くまもとの「く」を象ってい
ると同時に、Kumamotoの
「K」を変化させ、さらに前進し
ていく矢印をイメージし、本学の
校旗を彩る紫紺と校章にも使用
されるうこんで彩色されたデザ

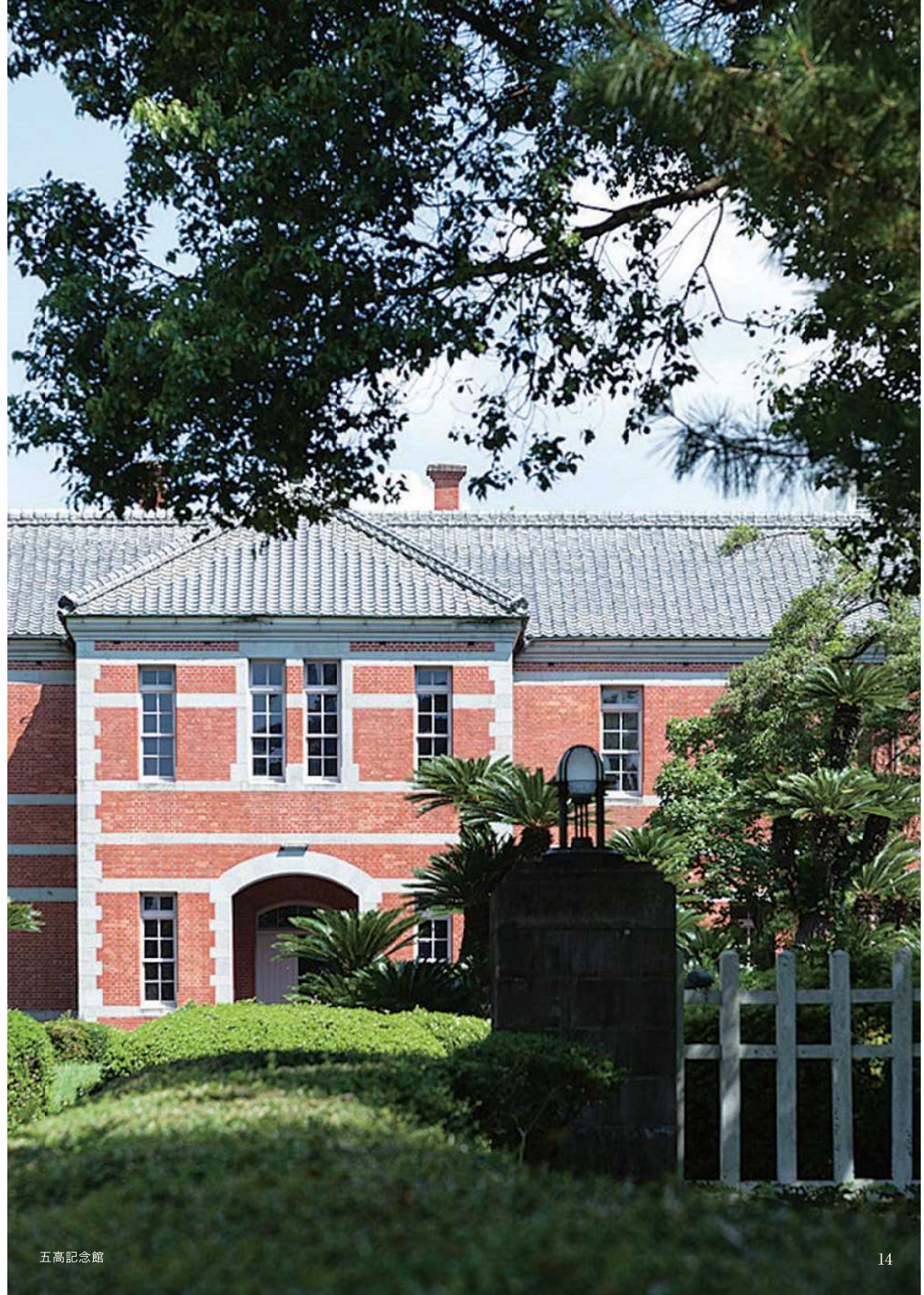
紫の
絆でつながる
七学部

熊本大学
Kumamoto University
コミュニケーションマーク

創造する森 挑戦する炎



コミュニケーションワード



五高記念館

さ

サインカーブ 【歴】さいんカーブ

熊本大学の正門である「赤門」【歴】（旧制第五高等学校正門）をくぐり、「五高記念館」【歴】（旧制第五高等学校本館）に続く道は、右左に緩やかな曲線を描いており、その形から「サインカーブ」と呼ばれ、熊本大学のシンボルの一つとなっっています。サインカーブの東側には「セーターサークル」が広がり、休息やサークル活動など、学生の憩いの場として利用されています。



サインカーブ（昭和28年当時）

し

紫熊祭 【歴】しぐまさい

熊本大学の大学祭は「紫熊祭」と名付けられています。この名称は、本学のイメージカラーの「紫」と「シ（しぐま）」に由来し、実行委員だけでなく、参加するサークルや職員など皆で大学祭を作り上げたいという思いが込められています。かつて学園祭は「黒髪祭」や「熊粹祭」という名で実施されていましたが、平成二十四年より、現在の「紫熊祭」に生まれ変わり、内容もより一層充実したものとなりました。

偉人の小径
サインカーブに
紅葉降る

ました。また、毎年、医学部がある本荘・九品寺地区では「本九祭（ほんきゅうさい）」、薬学部がある大江地区では「蕃滋祭（ばんじさい）」が同時開催され、大勢の人でにぎわいを見せています。



紫熊祭

平成の
息吹はじける
紫熊祭

上海オフィス 【施】しゃはいおふいす

「上海オフィス」は熊本大学が海外に設置するオフィスの一つで、平成十七年十月に開所しました。平成二十三年十月からは、熊本県、熊本市と共同で運営する「熊本上海事務所」として、中国の教育・研究機関との交流の活性化、日本留学を希望する学生への情報提供、県内企業への中国進出支援、中国から熊本への観光客の誘致などを行う窓口となっています。



上海オフィスが入居しているビル



上海オフィス内部

熊本大学ではこの他にも、韓国 K A I S T オフィス、国際産学連携サテライトオフィス（中国山東大学内）、インドネシア I T S オフィス、大連オフィスといった海外拠点を置いており、諸外国との連携事業を推進しています。

海を越え
中国とつなぐ
上海オフィス

食堂

熊本大学には、黒髪地区、本荘・九品寺地区、大江地区の各地区に食堂があり、昼休みには大勢の学生で賑わっています。この中には、栄養バランスのとれたヘルシーな食事をとりながら、社会貢献運動に寄与するという T F F T（テール・フォー・ツー。対象メニューを食べると一食あたり二十円の募金を生み、途上国の子どもへの給食となる。）運動に参加している食堂もあります。



学生会館カフェテリア食堂

黒髪南地区食堂「FORICO」



す

ストーム

旧制第五高等学校の寮では、五高生が寮歌を歌い、踊ったり、騒いだりする「ストーム」（英語の「storm」（嵐）に由来）が行われていました。ストームには、真夜中に突如大音を出し、寝ている者を襲撃したり酒を飲みながら行うもの、炎を囲んで行うファイアーストームなど様々なものがありました。五高記念館には、ふんどし姿で街を練り歩く五高生の写真なども残されています。

おばちゃんの
優しさが沁みるぜ
北食堂



ファイアーストーム

練り歩く
五高健児が
赤ふんで

そ

漕艇部

熊本大学体育会ボート部は、明治二十八年に旧制第五高等学校の漕艇部として発足した、百年以上の歴史を持つ部です。創部翌年には夏目金之助（漱石）が第二代会長に就任しています。当初は職員・生徒がそれぞれチームを組み競っていたのですが、一部・二部・三部の各課程の対抗、文科・理科による対抗など、時代によって、レースの形態は変化しました。前夜祭も含めて華々しく盛大に行われるようになったこのレースは、次第に熊本市の一大イベントになっていきました。また、医学部の前身である熊本医科大学にも昭和初期に漕艇部が誕生しており、江津湖に艇庫を構えました。現在、本学では、四十二の体育系サークル、三十五の文化系サークル、一つの大学祭団体が大学公認サークルとして活動しています。また、医学部や薬学部では学部独自のサークル活動も盛んに行われています。



漕艇部

百年を
水面に刻む
漕艇部

た

大学コンソーシアム熊本

【だいがくこんそーしあむくまもと】

大学コンソーシアム熊本は平成十八年一月に設置された団体で、熊本県内にある大学・高専等が協力して、高等教育機関の教育・研究の充実を図ることにより、地域の行政や産業界と連携しながら、地域社会の教育・文化の向上・発展に貢献し、あわせて熊本の教育環境の向上に寄与することを目的としています。熊本大学もこれに加盟しており、本学のほかにも十三の高等教育機関、二つの行政機関が会員校として加盟しています。インターンシップや大学ガイダンスセミナー、FD・SDといった教育研究活動、学生が企画するイベントの支援事業、留学生支援活動といった国際交流事業、地域連

携に関する事業、教員免許状更新講習など、幅広い事業を展開しています。



大学ガイダンスセミナー

コンソーシアム
連携で育む
地域の和

立田山

【たつたやま】

熊本大学の背後には、豊かな緑が残る「立田山」がひかえています。熊本大学の前身である旧制第五高等学校はこの立田山（龍田山）の

南側に隣接していたことから、「龍南」といわれ、五高生は「龍南健児」と呼ばれていました。黒髪北キャンパスのセンターサークルに建てられている「龍南健児の像」はこの「龍南健児」の姿を表したものです。



黒髪北キャンパスと立田山

現在、立田山周辺は住宅街でありながら自然が多く残っており、「立田山憩いの森」として整備されています。その一角には、五高創立七十五周年を記念して設けられた「五高の森」があり、記念碑が建てられています。

立田山
杜が見下ろす
黒髪キャンパス

える市民向け講演会のことです。熊本大学ではこのほかにも様々な生涯学習の機会を地域の皆様へ提供すべく、一般の方を対象に開設した講座「公開講座」や、本学学生向けに開講している授業を市民等の皆様に学生と一緒に受講していただく「授業開放」、テレビ・ラジオでの「放送公開講座」など、様々な講座を実施しています。

ち

知のフロンティア

【ちのふろんていあ】

「知のフロンティア」とは、平成十三年から熊本大学で開催している最先端の研究や社会的ニーズの高い研究についてわかりやすく伝



知のフロンティア講座

と

ぬきん出で
英知を養う
知のフロンティア

同窓会

【どうそうかい】

熊本大学は昭和二十四年に発足して以来、十数万人の学生を輩出して

てきました。学部別に「武夫原会」(文学部・法学部)、「教育学部同窓会」(教育学部)、「理学部同窓会」(理学部)、「熊杏会」(医学部)、「熊葉同窓会」(薬学部)、「工業会」(工学部)、「保健学科同窓会」(医学部保健学科)の七つの同窓会が置かれています。このほか、同窓会連合会と、東京・関西・九州に地区別の同窓会連合会が置かれており、学部横断的な同窓生が集う場として年に数度、各地での連合同窓会が開かれています。近年は、卒業生の皆様に母校を訪れて懐かしい学友や恩師と再会を果たし、互いに親睦を深めていただくように、毎年「大学窓」の時期に合わせてホームカミングデーを開催しています。



ホームカミングデー

ラブ熊大
卒業しても
我が誇り

な

夏目漱石

熊本大学の前身の一つである旧制第五高等学校では、多くの著名な教授が教鞭をとりましたが、その代表格と言えるのが夏目金之助(漱石)です。夏目漱石は明治二十九年に第五高等学校の英語教師として赴任し、明治三十三年まで在熊しました。在熊中は、英

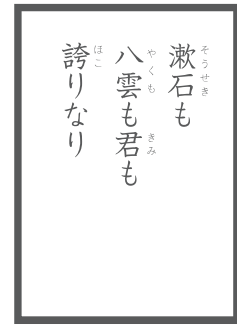


夏目漱石の句碑

語教師としてだけでなく、俳壇においても活躍しており、『龍南会雑誌』等にも俳句が残されています。学内には夏目漱石の座像が建てられており、その横には五高開校記念式典において読んだ祝辞の一説「夫レ教育ハ建国ノ基礎ニシテ師弟ノ和熟ハ育英ノ大本タリ」の文字が刻まれています。また漱石が詠んだ「秋はふみ吾に天下の志」の句碑も建立されています。本学在籍時の漱石に関する資料は五高記念館¹⁾で展示・公開しています。



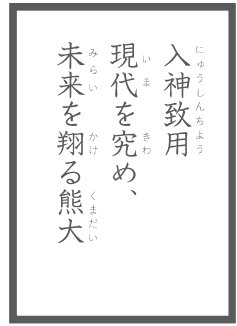
夏目漱石の祝辞



に

入神致用

旧制第五高等学校校長であった嘉納治五郎は、勝海舟に懇請し、扁額「入神致用」を揮毫してもらいました。「入神致用」とは、人が道理をくわしく究めて神妙の境地にいれば大きな働きをすることができる、という意味です。この扁額はかつて五高柔剣道場に掲げられ、五高生を見守ってきました。現在、扁額はそこに込められた思いとともに、熊本大学に伝えられています。



入神致用の扁額



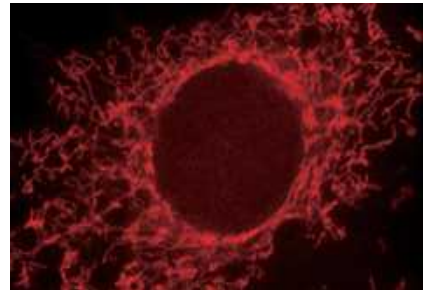
は

発生医学研究所

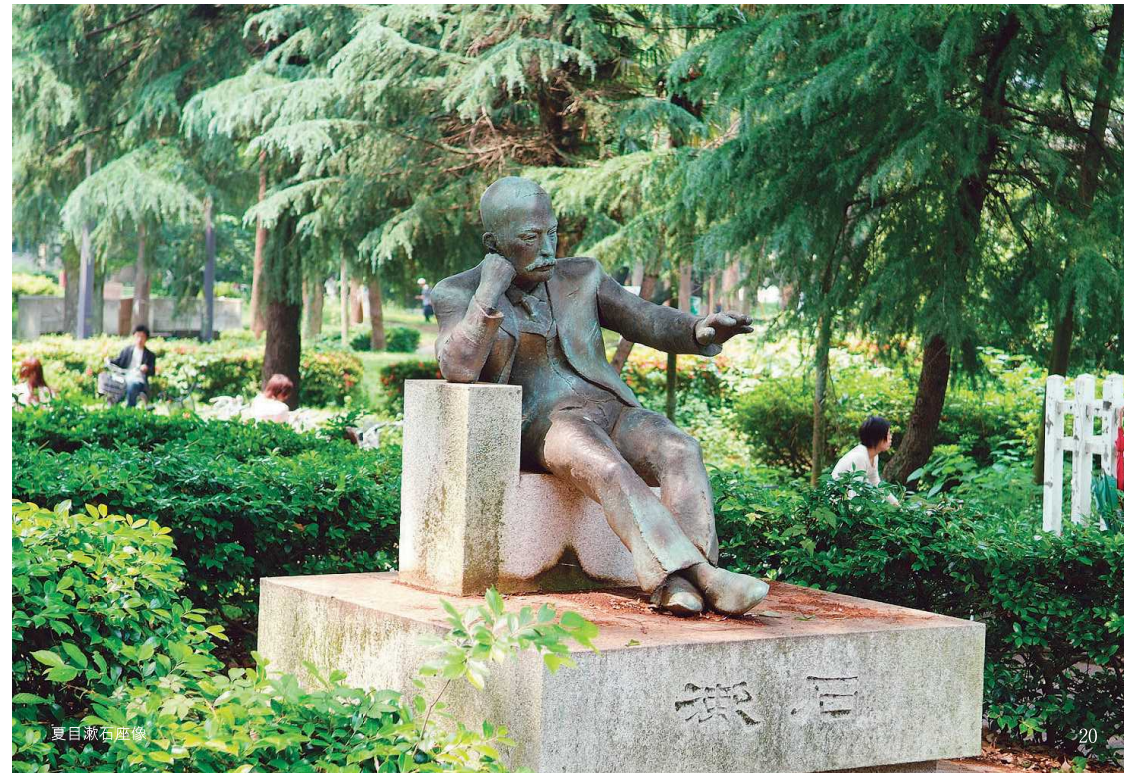
発生医学研究所では、私たちの身体の成り立ち(発生)、必要な幹細胞と臓器の作製(再生)について最新の研究を進めています。昭和十四年に設立された体質医学研究所を原点に、遺伝医学、遺伝発生医学、そして発生医学と、七十年以上の歴史の中で常に新しい学問領域を切り拓き、数々の研究成果と優秀な研究者を輩出してきました。平成二十二年からは文部科学省の「発生医学の共同研究拠点」に指定されており、国内外の研究施設と連携しながら、生命科学の若い人材を育成し、多くの研究成果を社会に還元しています。また、平成二十四年には附属センターとして臓器再建研究センターが設置されました。



iPS細胞



ミトコンドリア



夏目漱石座像



細胞核

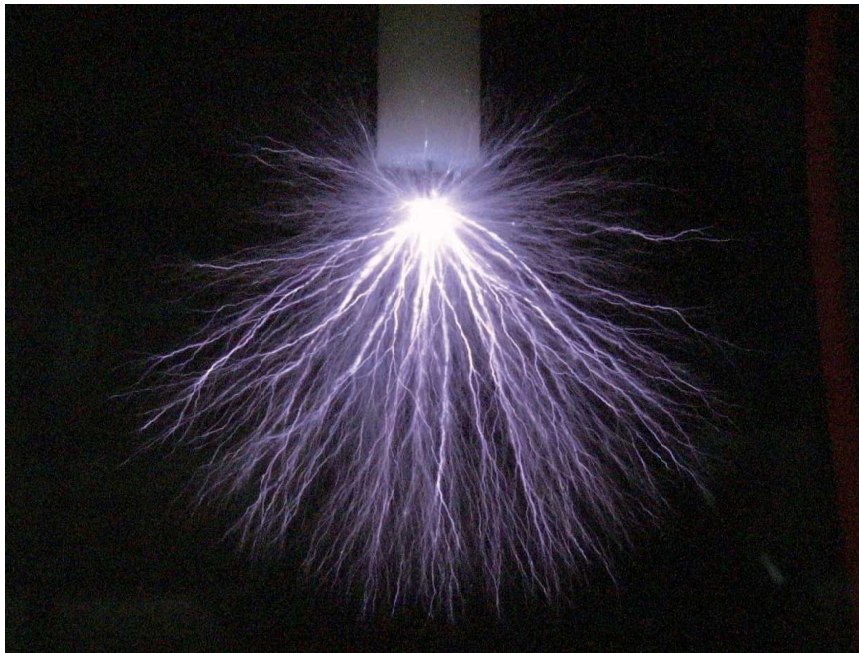
生命の
未来を紡ぐ
発生研

パルスパワー 研 ばる
すばわし



キメラマウス

パルスパワーは瞬間的なエネルギーであり、電気・化学・機械・光などのエネルギーを時間的に圧縮した巨大なエネルギーです。平成二十五年には熊本大学パルスパワー科学研究所が設置されました。研究所では、新たな技術によって、安全・安心な社会、環境保全・循環型社会、高度医療・福祉社会をめざし、研究に取り組んでいます。そのほかにも、**KUMADAI** マグネシウム合金などの新素材や新薬の開発、新たな治療法の研究など、様々な分野において国際社会の



パルスパワー

もつ諸問題の解決に向け、世界をリードしています。

メイドイン熊大
新たな技術で
世界をリード

ひ

干潟フェスタ 研 ひが
たふえすた

干潟フェスタは、産学官民の諸団体が実施する、海の環境を学ぶイベントです。地域の市民や子どもたちに干潟のを知ってもらおうと、熊本港干潟や親水緑地広場、野鳥の池、有明・八代海海洋環境センターなどで、毎年五月から六月の大潮の近い日に行われています。熊本大学では、昭和二十七年



干潟フェスタ



干潟の生物

より天草の合津に設けられた理学部附属臨海実験所（現在は、沿岸域環境科学教育研究センターの「合津マリンステーション」を中心に、日本最大級の干潟を有する有明海・八代海を中心とする沿岸域の自然環境や社会環境についての研究を行っています。

水産資源の
保全を学ぶ
干潟フェスタ

ふ

武夫原 研 ぶふげん

「武夫原」とは旧制第五高等学校時代から使用されてきた伝統のある運動場の名前で、現在でも黒髪北キャンパス運動場は「武夫原グラウンド」と呼ばれています。五高の黒本植教授が五高とその周辺の風景を著した『習学寮十二境記』において「ものふの原」が紹介されています。「武夫原」の名前はこれにちなんだものと言われており、さらに、五高運動場の愛称が「武夫原」となったのは、第五高等学校の寮歌「武夫原頭」が愛唱されるようになってからと言われています。

草萌ゆる
武夫原頭に
集う友



武夫原の昔と今



附属図書館

【施】「ふぞくとしよかん」

熊本大学附属図書館には、約百三十万冊を誇る図書、雑誌が収められており、日々熊本大学に所属する教職員・学生の教育・研究に活用されています。この中には、旧制第五高等学校をはじめとする前身諸校が所蔵していた戦前の貴重な書籍類も含まれています。また、国指定重要文化財である阿蘇家文書や、細川家老を務めた松井家の「松井家文庫」をはじめとする歴史資料を多数所蔵しているほか、細川家北岡文庫（通称永青文庫）の寄託を受けており、熊本の歴史に関する資料の調査・研究の場ともなっています。また、熊本大学が所蔵する資料を活用した学術研究を行います。平成一十五年十月に中央館がリニューアルオープンし、従前の機能を強化・充実するとともに、ラーニングコモンズ（学生同士が議論し知識を

求め、共に考える場のこと）など新しい機能が加わりました。



リニューアルされた附属図書館



昭和30年当時の附属図書館

- 1. 研究教育と連動した地域情報の蓄積
 - 2. 官民まちづくり組織の連携支援
 - 3. 市民のまちづくりに関する学習交流機会の提供
 - 4. 地元民間組織のまちづくり活動支援
- といった「まちづくり」——熊本市中心市街地の活性化をテーマに、学生や教員が日々研究に励むとともに、地域の方々との交流を深めています。工房内には十二席の研究スペースと五十人程度を収容できる展示・ゼミスペースが設けられています。

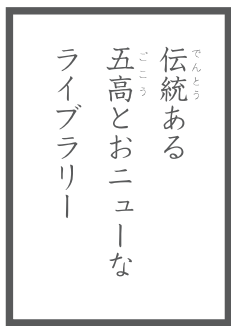
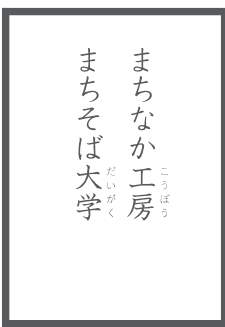


まちなか工房

熊本大学薬学部には、肥後藩の薬園「蕃滋園（ばんじえん）」の流れを汲む園があります。薬学部の前身である官立熊本薬学専門学校（熊草園）として昭和二年に開設され、昭和四十九年四月設置の附属薬用植物園を経て、現在は薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター（薬用植物園）として活動を行っており、センターには、千種を超す薬用植物の栽培・育種・保護を行っている熊本園などがあります。市民向

薬草園

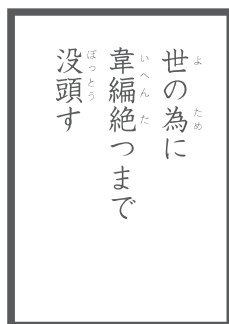
【施】「やくそうえん」



附属図書館の蔵書

【施】「ふぞくとしよかんのぞうしょ」

熊本大学附属図書館の蔵書には、前身校である旧制第五高等学校や熊本師範学校等で所蔵されていた、現在では手に入らない貴重な図書が数多く含まれています。読み札にある「草編（いへん）」とは、本を綴じた革ひものことで、転じて本、書物を指します。「草編三絶（いへんさんぜつ）」は孔子が「易経」を繰り返し読み、綴じひもが何度も切れたという故事に由来します。



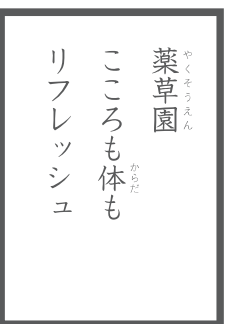
附属図書館の蔵書



まちなか工房

【施】「まちなかこうぼう」

工学部まちなか工房は、熊本市の市街地である上通並木坂商店街の一角にあります。平成十七年に文



山崎記念館

【施】「やまざききねんかん」



薬草園

熊本大学医学部附属病院があるキャンパスの一角にある山崎記念館は、元は昭和五年に「熊本医科大学山崎記念図書館」として建設されたものです。鉄筋コンクリート二階造りのこの建物は、官立熊本医科大学の初代校長である山崎正董（まさただ）氏を顕彰して造られました。山崎正董校長は高知県出身の産婦人科医で、愛知県立愛知医科大学（のちの名古屋大学）等の教授を歴任したのち県立熊本医科大学に赴任し、医科大学の官立（今の国立）昇格の後は初代校長として教育・研究に当たりまし



山崎記念館

た。現在山崎記念館では山崎正董氏が遺した様々な資料が展示されているほか、研修施設としても利用されています。

と同時期に開催されていることから、多くの来場者でにぎわっています。



夢化学探検

夢科学
大人も子供も
探検タイ

北里の
魂うけて
医を学ぶ

ユア・フレンド事業

ユア・フレンド事業とは、平成十四年に始まった、不登校児童・生徒のケアを目的として熊本市教育委員会と熊本大学教育学部が連携して行っている事業です。保護者からの要請を受けた熊本市教育委員会からの派遣依頼により、大学がユア・フレンドとして大学生を推薦派遣し、児童・生徒の話し相手や相談相手となつて子どもたちをサポートしています。現在で

ら

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）

ラフカディオ・ハーンはギリシャ出身の新聞記者（探訪記者）、紀行文作家、随筆家、小説家、日本研究家で、随筆家、小説家、日本研究家で、のち日本国籍を取得して小泉八雲と改名しました。明治二十四年、ハーンは第五高等学校の英語とラテン語の教師として赴任し、明治二十七年十月まで在熊しました。現在、**五高記念館**で在籍当時のハーンに関する資料が展示・公開されています。また、五高記念館入口には明治二十五年にハーンが演説部例会で行った演説「極東の将来」の結びの言葉を彫った石碑が設置されています。**附属図書館**では小泉

は、百五十名近い学生が登録しており、成果も見られることから、不登校児童・生徒対策の新しい取り組みとして、全国の保護者や市町村教育委員会などから注目されています。また、平成十九年度入学生から、活動を授業として単位認定できるようになりました。



ユア・フレンド事業

八雲に関する作品・伝記・評論を集積した「八雲文庫」を所蔵しており、ハーンに関する研究も行われています。

つないでく
ユア・フレンドで
子どもの未来

夢科学探検

「夢科学探検」は、小学生から一般の方まで幅広い方々に「科学」への理解と興味を持つきっかけをつくることを目的としたイベントです。大学生・大学院生が専門的な事柄を教える体験型の「理学部探検」「工学部探検」と、全国の大学生や高専生を対象とする、ものづくりコンテスト「もの・クリ Challenge」等が行われ、熊本大学の理工系学部・研究科でどのような研究がなされているのかがわかりやすく紹介され、好評を博しています。本イベントは毎年**大学祭**



ラフカディオ・ハーンの石碑

漱石も
八雲も君も
誇りなり

「熊大歌留多読み札」作品

あ	赤門をくぐりて今日も志を極む	2
い	偉人の小径サインカーブに紅葉降る	15
う	海を越え中国とつなぐ上海オフィス	16
え	えこあくど地球を愛する証しなり	4
お	おばちゃんのおいしさが沁みるぜ北食堂	17
か	軽いぞ強いぞ熊大マグネシウム	9
き	北里の魂うけて医を学ぶ	7 28
く	草頭ゆる武夫原頭に集う友	23
け	健児くん「熊大なう」のキャラクター	10
こ	コンソーシアム連携で育む地域の和	18
さ	様々な個性がキラリ熊大附属特別支援	8
し	心身を鍛錬します阿蘇遠歩	3
す	水産資源の保全を学ぶ干潟フェスタ	23
せ	生命の未来を紡ぐ発生源	22
そ	激石も八雲も君も誇りなり	20 29
た	立田山社が見下ろす黒髪キャンパス	19
ち	父が通った赤レンガいつか私も熊大生	2
つ	つないでくユア・フレンドで子どもの未来	28
て	伝統ある五高とおニューなライブラリー	26
と	寅の刻附小伝統うさぎ狩り	7
な	難病に光明見出すエイズ研	4
に	入神致用現代を究め未来を翔る熊大	21
ぬ	ぬきん出て英知を養う知のフロンティア	19
ね	練り歩く五高健児が赤ふんで	17
の	遺されし細川の宝永青文庫	3
は	春の日にアブラでしばしの日光浴	2
ひ	100年の学び刻みし五高記念館	12
ふ	楓の木の内吹はしける紫熊祭	8
へ	平成の息吹はしける紫熊祭	15
ほ	本荘の緑豊かな病院に命をつなぐ心ありけり	3
ま	まちなか工房まらそは大学	27
み	未来を担う若人の背中を後押し学長講義	6
む	紫の絆でつながる七学部	11 12
め	メイドイン熊大新たな技術で世界をリード	23
も	百年を水面に刻む漕艇部	17
や	薬草園こころも体もリフレッシュ	27
ゆ	夢科学大人も子供も探検タイ	29
よ	世の為に韋編絶つまで没頭す	26
ら	ラブ熊大卒業しても我が誇り	19
り	りっぱだなあ附幼のくすの木あおぎ見る	9
る	るんるんるんこぼどの園児げんきよく	12
れ	煉瓦色赤く燃ゆるは学徒の心	12
ろ	浪漫と誇り湛えて動く機械遺産	10
わ	ワクワクで育む意欲高次連携	11

※下段の数字は掲載ページ

平成 26 年 8 月発行

編集・発行

国立大学法人熊本大学

〒 860-8555

熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号

TEL 096-342-3119 (広報戦略ユニット)



熊本大学
Kumamoto University